

教養科目授業改善のための学生によるアンケート調査

— 学生による授業評価に向けての試行 —

大学教育開発研究センター

吉村尚久・小林昌二・長谷川彰・竹内照雄・長岡成夫

A Trial of Students' Evaluation of Teaching and Consciousness of Learning

Takahisa Yoshimura, Shoji Kobayashi, Akira Hasegawa,
Teruo Takeuchi and Shigeo Nagaoka

This paper presents a trial of students' evaluation of teaching in general education and its result. Questionnaire is composed of three points of view; ① difficulty for achievement of class, ② students' consciousness and attitude of learning, and ③ students' rating of teaching.

Use of students' evaluation has to been made not only by teacher in charge but also faculty. College teaching is interactive between students and faculty. Students' evaluation is also usefull to student in the meaning of improvement in attitude of learning.

Key words: Faculty development, Questionnaire, Students' evaluation, General education, Improvement of education

1 ま え が き

新潟大学では平成5年度から4年(6年)一貫の新カリキュラムによる授業が行われており、それに伴って平成6年度から教養部が廃止され、学内措置ではあるが大学教育開発研究センター(以下、大教センターと略記)が設置された。従来、教養科目は教養部教員が主に担当していたが、平成6年度以降、全学の教員が担当する、いわゆる全学出動方式で行うことになった。新たに教養科目を担当する教員も多く、学生の理解程度から判断して、当初計画のシラバスどおりに授業を進められなかった場合もあったと聞いている。

大学における教育は、大学が組織として責任を持って行っているものであり、教員と学生の相互作用を通して進められるべきものである。従って、授業においては、学生の反応・意見を聞くことは当然のことと受けとめられている。新カリキュラムによる授業について

は、既にいくつかの学部が学生に対してアンケート調査を行っており、これらの調査結果は当該学部のみならず今後学生教育について検討する際の基礎資料として重要である。カリキュラム全体と同時に、個々の授業科目について聴講している学生の授業に対する受けとめ方、理解度、学力状況の対応関係や意見等を知ることとは教育改善の一貫として必要なことと考えられる。

大教センター研究開発部門の平成6年度事業の一つとして学生による授業評価に取り組むことになり、カリキュラム改革調査研究経費として「学生による教養科目の授業評価方法導入の基礎的調査」を要求することになった。プロジェクトの担当者には筆者等があたり、授業評価方法の導入プラン立案の基礎調査を行うこととした。先ず、第1学期に授業を担当していた者が基礎的な調査を行い、それを参考にしてアンケート項目を検討した。ある程度整理できたところで、大教センター研究開発部門の会議に諮り、授業改善のため

のアンケート項目を決定し、研究開発部門としてアンケートに取り組むことにした。幸いカリキュラム改革調査研究経費の要求が認められたので、スムーズに実行に移れた。

アンケートの集計結果は、個々の授業についてのデータ及び意見は授業担当者には報告するが、大教センターとして公表することは一切しないことにした。ただ、分析するための一般的傾向、系列や科目群についての集計データ等は報告として公表することにした。

データの整理は竹内と企画室職員が当たり、この報告は筆者らが系列及び科目群ごとの集計データを検討の上、分担して執筆した。

2. アンケート項目

アンケートは個々の授業科目について行うことにした。アンケート項目は大きくわけて3つの部分から構成されており、①授業全体に対する受けとめ方、特に難易度、②学生自身の受講態度、③授業のやり方・内容等である。以上はマークシート方式で、その他に良い点・悪い点・改善策等について自由に記入してもらった。

授業は教員と学生の双方向的な営みであることからして、学生が受け身一辺倒で受講するのではなしに、学生自身が主体的にどう取り組もうとしているかを調べる必要がある。②の項目は学生自身の学習へのかかわり方を評価する意味である。

全体で28項目を共通の質問とし、他に個別授業で担当者が学生に聞きたい質問を5項目まで付け加えられるようにした。追加質問は別紙として用意したが、回答欄はマークシートの回答用紙に予め印刷しておいた。回答を無記名とするか記名とするかは議論が分かれたが、学生に抵抗無くアンケートをスムーズに実施するため無記名とした。

具体的なアンケート項目は、84、85ページに記載の「授業改善のためのアンケート」に示すとおりである。

3. アンケートの実施状況

今年度は試行ということで、総合科目群・人文科学

科目群・社会科学科目群・自然科学科目群の普通の講義形式の授業について協力をお願いし、対象となる通年及び第2学期開講科目の約2/3についてアンケート調査を実施することができた。実施状況の概要は表1のとおりである。

アンケート調査は第2学期試験直前の講義最終日に15分程度の時間を取って担当教員の手で実施したが、一部試験日に実施した科目もある。

4. アンケート回答集計結果の特徴と若干の分析

4.1. 総合科目

難易度について、「全体としてわかりやすかった」が17%で、他科目群と比べて最低である。「全体としてわかりにくい」も9%で自然科学科目群について高い。その理由として「基礎知識不足」39%、「勉強不足」28%、「内容が高度」15%、「内容に興味が無い」13%などがあげられている。つまり、総合的な内容をもっているため、全体を把握するのが困難であるのかも知れない。その反面、「学問に関心が深まった」36%、「内容に関心が深まった」25%などは人文科学について高く、社会科学・自然科学と比べて、約10%高い。

総合科目は学際性をキーコンセプトとして立案され、学問上の問題と現実生活とのギャップを埋めて、異なる専門相互間の関連を理解させる意味で考えられている。この意味からすると、1年生が全面的に理解できるのは本来難しい面を持っていると考えられる。

以下、人文・社会科学系と自然科学系にわけて特徴をみてみよう。

4.1. A. 人文・社会科学系総合科目

人文・社会科学系総合科目は、今回のアンケートにおいて第2学期開講の科目に限定せざるを得なかったことに伴い、その回答が社会科学系総合科目の189名分にとどまり、人文科学系総合科目が含まれていない問題が残った。したがって以下の若干の分析は、社会科学系総合科目の限られたアンケート結果についてであることを予めお断わりしておきたい。

ここでの特色は、「全体としてはわかりにくい」とする者30.2%、「全体にわかりにくかった」とする者

12.2%と、社会科学科目群における21.4%、6.4%よりも高く、また自然科学科目群の29.6%、11.6%をもそれぞれ超えて、概してわかりにくいとしている者の多いことである。

しかし、その受講学生の学部別の構成をみると、法・経が各々97名、33名で計130名、68.8%であり、人文・教育が各17名で計34名、18%、理・工・農が、それぞれ8、13、3名の計24名で、12.7%となっており、明らかに社会科学系の法・経学部生が70%近い高い比率をもっていたにもかかわらず、概してわかりにくいとしている者が多かったのである。

「講義内容の程度が高すぎる」としたものは11.1%とあって、自然科学系総合科目の15.5%、人文科学科

目群の12.6%、社会科学科目群の8.6%、自然科学科目群の19.7%などと比べても、決して高いほうではなかった。しかし「基礎知識の不足」という点では、45.5%と、他の自然科学系総合科目の36.4%、人文科学科目群の34.5%、社会科学科目群の34.3%などよりも10ポイントも高く、自然科学科目群の40.2%をも上回っている。したがって「講義内容の程度が高すぎる」ことをそれほど感じさせなかったが、実際には「基礎知識の不足」を実感させる授業であったことが推測されるのである。

受講の結果については、他の「体系的知識が得られた」などの項目においても高いほうの比率を示しているが、特に「学問に関心が深まった」とするものの比

表1 授業改善のためのアンケート調査実施状況

科目群	学系	通年及び第2学期開講科目数	調査実施科目数	調査対象学生数	調査回答数	回答率(%)
総合科目群	人文科学系	2	—	—	—	—
	社会科学系	4	2	305	189	62.0
	自然科学系	8	7	1,285	638	49.6
	計	14	9	1,590	827	52.0
人文科学科目群	哲学・思想史系	12	5	251	127	50.6
	心理学系	9	3	551	422	76.6
	文学系	10	5	861	451	52.4
	歴史学系	6	2	819	402	49.1
	美術系	2	2	216	189	87.5
	音楽系	4	1	220	133	60.5
	計	43	18	2,918	1,724	59.1
社会科学科目群	法学系	5	2	998	405	40.6
	社会科学概論系	2	2	710	362	51.0
	政治学系	2	—	—	—	—
	経済学系	6	2	270	144	53.3
	社会学系	4	3	914	420	46.0
	地理学系	8	3	609	242	39.7
	計	27	12	3,501	1,573	44.9
自然科学科目群	数学系	19	13	995	543	54.6
	統計学系	5	5	525	256	48.8
	物理学系	16	11	940	579	61.6
	化学系	14	11	786	465	59.2
	生物学系	11	9	1,533	821	53.6
	地学系	9	9	1,596	1,124	70.4
	計	74	58	6,375	3,788	59.4
合計		158	97	14,384	7,912	55.0

(注) 自然科学科目群の開講科目数には実験科目を含まない。

率が、43.3%と他の分野の26.6%~39.0%を抜いて最も高く、また「なにも得られなかった」とするものの比率も、7.4%と他の分野の9.0%~15.5%に比べて最も低いというように、教育効果の高い授業であったと想定されることが注目されるものであった。

むろん、この教育効果の高さは、担当スタッフの技量から生れた個別の授業の特色の故であるか、それとも総合科目としての特質から生じた効果であるのかなど直ちに判断することはできないが、こうした結果から総合科目としての授業について、その担当者としての努力など、なお授業担当者から聞き取り調査をするなどの課題のあることが明らかになったといえよう。

4.1.B. 自然科学系総合科目

総合科目群の中の自然科学系に属する授業科目の全開講数は14であるが、第2学期に開講されている科目は通年のもの2科目を含め全8科目であり、そのうちの7科目でアンケートが実施された。アンケートが実施された授業の全聴講者数は1,285名であり、回答した学生数は638名である。その割合をアンケート回答率と定義すれば、それは52%である。アンケート回答率は、アンケートが実施されたときの授業における出席率を表してもいる。アンケートが実施されたのは最終講義または試験の時間であるから、この結果は残りの48%の学生が途中ですでに聴講を放棄したか、または放棄寸前の状態になったことを意味し、それ自体重大な問題を含んでいる。アンケートが実施された7科目の中では、アンケート回答率（出席率）の最高は74%、最低は40%である。

一般的な質問の中の選択理由では、「内容に興味を持った」が最も多く44%、次に多いのは「指定されていた」の32%である。「一般教養として必要」と「時間割の関係」が共に15%で続く。「指定されていた」が比較的多いのは、医学部、歯学部、農学部が初め自学部の1年生向けに開講していた科目を、総合科目として全学部向けに開放するようになった事情を反映しているように思われる。

難易度は「全体としてはかなり分かり易かった」にピークがあり46%で、「全体としては分かり易かった」も19%ある。しかし、「全体としてはかなり分かり難

かった」と「全体として分かり難かった」が合わせて35%にも達する。

困難の理由は、「基礎知識が不足」が36%と最も多く、「自分の勉強・努力が不足」26%、「程度が高すぎる」16%が続く。「内容に興味をもてず、勉強する気になれなかった」が14%もある。なお、この質問に対しては複数回答が可としてある。

受講結果（これも複数回答可）については、「この分野の学問に対して関心が深まった」34%、「教養としての知識・考え方が得られた」32%、「興味をもっていた内容に関心が深まった」25%、「専門の準備として役立った」15%、「体系的知識が得られた」12%など、担当する側にとっては歓迎すべき結果はかなり多いが、「特に何も得られなかった」が12%もあるので喜んでばかりもいられない。

授業の内容については、この受講結果とほぼ矛盾しない回答のように思われる。すなわち、全体的に見れば、授業のテーマは明確で、体系的に整理されており、概ねシラバスに沿って進められ、量的にも適切で、説明は平易であり、内容にも十分興味が持てた。しかし、どの項目においてもマイナス側の合計は10数%あり、受講結果における「特に何も得られなかった」の12%に符合する。

受講の様子については、「ほぼ全回出席した」学生は56%で、「2/3位は出席した」は30%、「1/2以下の出席」は14%である。アンケートを実施したときの出席率そのものが52%であることを考慮すれば、平常の出席率は相当に低かったと想像される。

欠席あるいは遅刻したとき、その後どうしたか、という質問に対しては、「友人に授業内容を聞いたり、ノートを借りたりした」と答えた学生は約50%であり、「特に何もしなかった」と答えた学生は36%である。理解できない箇所がでてきたときには、「友人と話合う」と答えた学生は22%であり、「図書を調べ」たり、「教員に質問した」と答えた学生は17%、残りの60%の学生は「特に何もしなかった」と答えている。また、何らかの形で自習をする学生は34%いるが、残りの66%は「特に何もしていない」と答えた。

授業一般に関連した、教員の熱意については、90%の学生が肯定的に評価している。講義室の状態・聴講

学生数などの適切さについての質問に対して、マイナス側の合計は22%である。

4.2.人文科学・社会科学科目群

以下に、人文・社会科学科目群の特徴についてまとめなければならないが、全体的なまとめにはなお時間を必要とする。したがってここでは、授業改善のためにとりあえず、難易度の問題に絞ってまとめながら、若干の考察を加えることでその責めを果たしたい。

授業の難易度の設問に対しては、4つの回答選択肢があり、本報告中においてはそれぞれ次のように略記して使用している。

全体理解：①全体としてわかりやすかった

大体理解：②わかりにくい点もあったが、全体としてはかなりわかりやすかった

大体困難：③わかりやすい点もあったが、全体としてはかなりわかりにくかった

全体困難：④全体としてわかりにくかった

【人文科学科目群】

人文科学科目群の難易度に関する全体的特色には、困難理由における「講義内容に興味を持てず、勉強する気になれなかった」とした者が7.1%、受講結果の「特になにも得られなかった」とした者9.0%と、社会科学科目群(11.6%、12.8%)、自然科学科目群(8.0%、15.5%)に比べ、その差はそれほど大きくはないが、これらの中で最も低く表われている点が注目される。

なぜそのようにあらわれるのか、また最も低く表われているが、そこでの問題は何か、など若干の考察を加えてみたい。

第1に、なぜそのように最も低くあらわれるか、であるが、まず選択理由において、社会科学科目群と同様に指定が極端に少なく、時間割の関係において選択せざるをえなかった者が13.6%にとどまり、社会科学科目群の20.9%よりも低く、注目される。一方、自然科学科目群では指定が23.2%、時間割の都合による者18.7%で、計41.9%の者が、自らの主体的な選択という契機を持たない受講を行っていることが分かる。したがって人文科学科目群では、主体的な選択という契機を持って受講している者の比率が高いという特色が

示されている。

次に、難易度における「全体としてわかりやすかった」としたものが44.7%で、社会科学科目群の28.5%、自然科学科目群の17.9%に対して、はるかに分かりやすい内容が提供されているといえることである。

視点を変えて見てみよう、大体困難と全体困難の和が23.6%で、社会科学科目群の27.8%、自然科学科目群の41.2%よりも低い。一方困難理由として、高校での履修を含む基礎知識不足をあげている者においては34.5%と、社会科学科目群における34.3%と同様であるが、自然科学科目群40.2%よりも基礎知識の不足していないことが指摘できる。

さらに授業の出席率という点では、ほぼ全回出席した者は59.8%で、社会科学科目群の55.2%、自然科学科目群の58.3%を上回り、また3分の2以上出席では25.4%で、社会科学科目群の25.4%と同じく、また自然科学科目群の28.7%よりやや低いものの、それほど低いとはいえない。したがって出席率は、かなりよいといえよう。

第2に、そうした割と良好そうに見える人文科学科目群の中に立ち入って見ていくと、その中は一様ではない問題がある。出席率の高いことでは共通するが、両極を示す心理学系と歴史学系との比較をしてみよう。

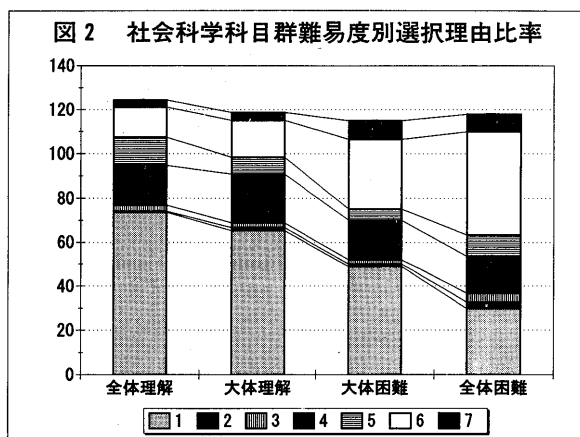
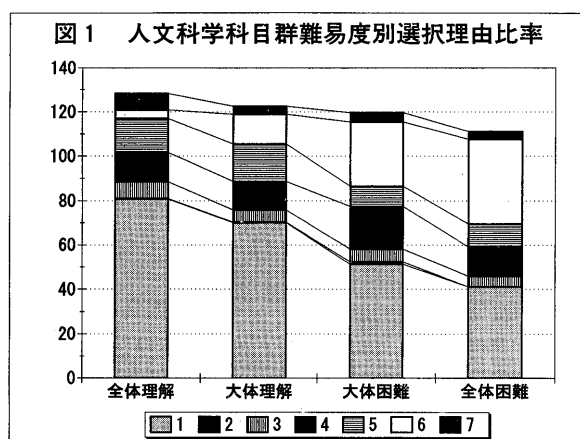
	心理学系	歴史学系
受講様子：3分の2以上出席	88.2%	91.3%
選択理由：やむをえず選択	4.0	29.6
難易度：大体と全体困難	2.8	45.1
困難理由：程度が高すぎる	3.1	18.9
：する気になれず	4.7	14.9
受講結果：何も得られず	2.1	20.1

やむをえず選択した者の落差は大きく4.0%と29.6%とであり、大体と全体困難の差はなお大きく、程度も高すぎるという歴史学系では、する気になれずが約3倍、何も得られなかった者の比率が10倍程になることをどのように考えるべきなのか。

やむをえず選択した者の場合、人文科学科目群においては、大体困難、全体困難の比重が次第に大きくなる傾向を図1から知ることができる。社会科学科目群では図2に見られるように、やや緩やかな緩和された

比重で表われている。自然科学科目群のグループIでは図3（79ページ参照）のように、相違がほとんど見られない。これらと比較した時に、人文科学科目群では、やむをえず選択した者の履修についてどうすべきか、検討をする必要があることを示している。

また、前掲のデータの結果を示した心理学系と歴史学系との相違に、いかなる問題が伏在しているのか、なお具体的な比較検討に興味をもたれ、これも課題としなければならないであろう。



(注) 図1・図2の番号の意味については、79ページ参照。

【社会科学科目群】

社会科学科目群の難易度の特色の一つには、人文科学科目群の全体理解44.7%と、全体困難8.3%に対して、それぞれ28.5%、6.4%と人文科学科目群ほど両極端的ではなく、大体理解と大体困難が、それぞれ43.4%、21.4%というように、中間的な表われをしていること

がある。自然科学科目群では、大体困難29.6%、全体困難11.6%というように、困難の方に比重がある。したがって自然科学科目群のように全般的に困難な方に比重が高いのではない。人文科学科目群に比較して、全体に困難が少ないのに全体理解が少ないという現象を呈しているのである。

ここでは、なぜそのような現象が生じているのかについて考えてみたい。この分野での授業への出席率という点では、ほぼ全回出席した者は社会科学科目群55.2%で、人文科学科目群59.8%、自然科学科目群の58.3%を下回る。3分の2以上出席では25.4%で、人文科学科目群の25.4%と同じだが、自然科学科目群の28.7%よりやや低く、出席率が、よいとはいえないことが注意を引く。やや低い出席率の要因について、なお立ち入って社会科学科目群の中で出席率の点で相違の顕著な社会科学概論系と経済学系の2つの科目の比較から見てみよう。

社会科学概論系 経済学系

受講様子：3分の2以上出席	88.7%	72.2%
選択理由：やむをえず選択	15.7	39.6
難易度：大体と全体困難	10.5	43.7
困難理由：程度が高すぎる	2.5	9.7
：する気になれず	9.1	17.4
受講結果：何も得られず	11.3	22.9

出席率の芳しくない経済学系において、やむをえざる選択による受講の多さが目立ち、困難度が数倍高く、する気になれないとか、なにも得られなかったが、2倍のパーセンテージを占めている。出席率が芳しくないのは、やむをえざる選択による受講の多さが原因なのかどうか、これを次に出席の同じ様に芳しくない社会学系と比較してみよう。

社会学系 経済学系

受講様子：3分の2以上出席	75.4%	72.2%
選択理由：やむをえず選択	12.9	39.6
難易度：大体と全体困難	27.4	43.7
困難理由：程度が高すぎる	13.3	9.7
：する気になれず	7.6	17.4
受講結果：何も得られず	7.4	22.9

社会学系の出席率は、経済学系同様に高くはないが、やむをえざる選択は、3分の1と低い。したがってこれは、出席の程度に直接関係はしないことが分かる。社会学系の程度が高すぎるとする者は、比率としてやや高いものの、大体と全体困難の比率も低く、する気にならず、何も得られなかったとするものも2分の1、3分の1とそれぞれ低く表われていて、個別授業の具体的な問題を捨象すると、やむをえざる選択の者の少なさが幸いしているように思われる。

経済学系と同様のケースに法学系があり、この両者のデータを次に掲げておこう。

	法学系	経済学系
受講様子：3分の2以上出席	79.3%	72.2%
選択理由：やむをえず選択	26.4	39.6
難易度：大体と全体困難	44.2	43.7
困難理由：程度が高すぎる	9.6	9.7
：する気になれず	18.0	17.4
受講結果：何も得られず	19.0	22.9

ここでは、やむを得ざる選択者の比率の高いことが共通して種々の困難の要因であるかのように見えるが、次に念のため、やむを得ざる選択者の比率が類似する社会学系と社会科学概論系との比較を見てみよう。

	社会学系	社会科学概論系
受講様子：3分の2以上出席	75.4%	88.7%
選択理由：やむをえず選択	12.9	15.7
難易度：大体と全体困難	27.4	10.5
困難理由：程度が高すぎる	13.3	2.5
：する気になれず	7.6	9.1
受講結果：何も得られず	7.4	11.3

社会学系では、やむを得ざる選択者の比率が低いにもかかわらず、出席状況は社会科学概論系より良くない。したがって出席状況は、やむを得ざる選択者の比率に直接関係しないことが指摘できる。むしろここでは、程度が高すぎるとする者13.3%で、社会科学概論系の2.5%の5倍の比率になる。この差が出席率に影響をもっているかどうか、注意を必要とするところである。そうした観点からもう1度、経済学系を程度が高

い点などで類似する法学系と比較して見てみよう。

	法学系	経済学系
受講様子：3分の2以上出席	79.3%	72.2%
選択理由：やむをえず選択	26.4	39.6
難易度：大体と全体困難	44.2	43.7
困難理由：程度が高すぎる	9.6	9.7
：する気になれず	18.0	17.4
受講結果：何も得られず	19.0	22.9

講義内容の程度が高すぎるという者の比率が、ほぼ同じで難易度も同じことが注目される。

以上、社会科学科目群では、程度が高すぎるとの表われは、出席に否定的に関係し、やむを得ざる選択者の比率が多いとこれに相まって、全体理解を困難にし、大体の理解にとどまる者を多くしているようである。

4.3. 自然科学科目群

自然科学科目群に属する全授業科目の開講数は、実験科目を除き、135であるが、第2学期に開講されている科目は通年のもの14科目を含め全74科目であり、そのうちの78%に相当する58科目でアンケートが実施された。ただし、今回のアンケートでは、実験科目はアンケートの対象から外されている。アンケートが実施された授業の全聴講者数は6,375名であり、回答した学生数は3,788名であるから、アンケート回答率は59%である。このアンケートの回答率は他の科目群（人文科学59%、社会科学45%）と比べて高い。

これを学系別にすれば、(以下では、特に区別する場合を除き、数学系と統計学系を合わせて数学系と呼ぶことにする) アンケートが実施された授業数は、数学系18 (24)、物理学系11 (16)、化学系11 (14)、生物学系9 (11)、地学系9 (9)である。ここで、カッコ内の数値は、第2学期に開講されている全科目数である。また、アンケート回答率は、数学系53%、物理学系62%、化学系59%、生物学系54%、地学系70%である。アンケートが実施された自然系全科目の中では、アンケート回答率の最高は90%、最低は27%である。

選択理由は「指定されていた」が23%である。自然科学系総合科目に比べれば少ないように見えるが、前述したように、本年度の総合科目にはガイダンス必修

のような科目もいくらかあった事情もあり、また、人文科学科目群や社会科学科目群では1%程度であるから、この選択理由は自然科学科目群の特徴の一つであると言える。

難易度については、「全体として分かり難い」が41%もある結果は、人文科学科目群の24%や社会科学科目群の28%に比べれば際立って高い。理由については、「基礎知識不足」と「自分の勉強努力不足」が共に40%と高く、「内容の程度が高い」20%も人文科学科目群(13%)や社会科学科目群(9%)に比べればかなり高い。受講結果については、「教養として良かった」は30%で、人文科学科目群(38%)や社会科学科目群(47%)を下回るが、「専門の準備として役立った」16%は人文科学科目群(5%)や社会科学科目群(2%)に比べれば高い。

受講の様子については、「全回出席」は58%、「3分の2以上出席」は29%であり、アンケート回答率59%を考慮すれば、授業の出席状況は決して良いとは言えない。授業内容については、マイナス側の合計は総合科目に比べればいくらか減っているが、人文科学科目群や社会科学科目群に比べればやや高い。

欠席あるいは遅刻したとき、「友人に授業内容を聞いたり、ノートを借りたりした」学生は約62%であり、「特に何もしなかった」学生は29%である。理解できない箇所がでてきたときには、「友人と話合う」学生は28%であり、「図書を調べ」たり、「教員に質問した」学生は25%、残りの47%の学生は「特に何もしなかった」。また、何らかの形で自習をする学生は39%いるが、残りの61%は「特に何もしなかった」。自習について、「特に何もしなかった」学生の割合は人文科学科目群(58%)や社会科学科目群(66%)と殆ど同じであるから、これは現在の学生の一般的な傾向なのかも知れない。

授業一般に関連した、教員の熱意については、77%の学生が肯定的に評価している。この数値は人文科学科目群、社会科学科目群の科目と比較しても高い。講義室の状態・聴講学生数などの適切さについての質問に対して、マイナス側の合計は14%である。

【自然科学科目群の学科別集計結果】

ここでは、学系別に結果を分析してみよう。ただし、総合科目の中で自然科学系といっても実際には自然科学以外の分野も含まれているので、ここでは、総合科目群の分析は行わず、自然科学科目群の分析に限ることにしたい。

選択理由は、大体の傾向としては、数学系と物理学系は「指定されていた」ので聴講し、生物学系と地学系は「内容に関心があった」ので聴講している、と言える。化学系は中間である。難易度については、「全体として分かり難い」は、数学系、物理学系、化学系では40-60%と高く、生物学系、地学系では30%と少し低い。学問分野の性格の違いからか、他の質問項目についても、前者3学科目と後者2学科目の間で結果が分れる。困難理由は、前者では「自分の勉強努力不足」が約50%であり、後者では「知識不足」が主な理由となっている。「程度が高い」においては、数学系の32%が際立って高く、化学系の24%がこれに続く。

受講の結果については、数学系は「専門の準備に役立った」が主であり、物理学系は「専門の準備に役立った」、「体系的な知識が得られた」、「教養としての知識が得られた」はどれも20%を越え、化学系も比率は少し違うが似ている。生物学系、地学系は少し傾向が違い、「この分野に関心が深まった」、「教養としての知識が得られた」が30-40%である。

受講の様子については、「全回出席」は全体では50-60%であるが、数学系と化学系がそれぞれ52%、55%と低く、数学系はアンケート回答率も自然科学科目群の中では最低(53%)である。自習についての質問に対して、「予習あるいは復習をした」と答えた学生は、数学系18%(統計学系14%)、物理学系17%、化学系14%、生物学系9%、地学系7%であり、「特に何もしなかった」と答えた学生は、数学系58%(統計学系66%)、物理学系57%、化学系60%、生物学系64%、地学系64%である。学系の間で多少の違いは見られるが、自ら進んで勉強している学生が多い、とは決して言えない状況である。

授業の主題は明確であったか、体系的に整理されていたか、シラバスに沿って行われたか、という質問に対してはマイナス側の合計は5分野のそれぞれで高々

10%であるが、平易に説明されたか、の質問に対しては、数学系のマイナス側の合計は29%と高い。量的に適切であったか、という質問に対しては、数学系と化学系のマイナス側の合計が20%を越える。「興味がもてなかった」は、数学系22%、物理学系18%、化学系16%、生物学系11%、地学系8%の順となっており、化学系と生物学系の間には段差がある。

次に、文科系3学部の学生達が自然科学科目群の科目に対してどのような意識をもっているかを概観してみよう。

まず、数学系、物理学系、化学系のグループ、生物学系、地学系のグループでの回答数に大きな違いがある。前者3学科目の回答数は1,841名であり、そのうち文科系3学部の学生は175名で9.5%である。これに対して後者2学科目の回答数は1,945名であり、そのうち文科系3学部の学生は767名で39%である。

選択理由については、「内容に興味をもった」がトップで彼らの中では40-50%を占め、「時間割の都合」、「一般教養として必要」がこれに続く。難易度については、「分かり易かった」が意外に多く、その数値は理科系学生に決してひけをとらない。しかし、理科系学生と同様に、約40%の学生が受講困難を訴えていることも事実である。困難理由は、理科系学生と順序が逆で、第1が「基礎知識の不足」であり、「自分の勉強努力の不足」がこれに続く。受講結果については、「教養としての知識考え方が得られた」と「この分野に対して関心が深まった」が多い。この点でも、理科系学生の「専門の基礎として役立った」とは対照的である。受講の様子については、「全回出席」は文科系学生の方が多い。

なお、学生の所属は学部までしか明らかではないので、教育学部の学生を文科系と理科系に識別することはできない。全体としての彼らの回答のパターンは、理学部や工学部の学生と比較すれば、文科系学生とよく似ている。

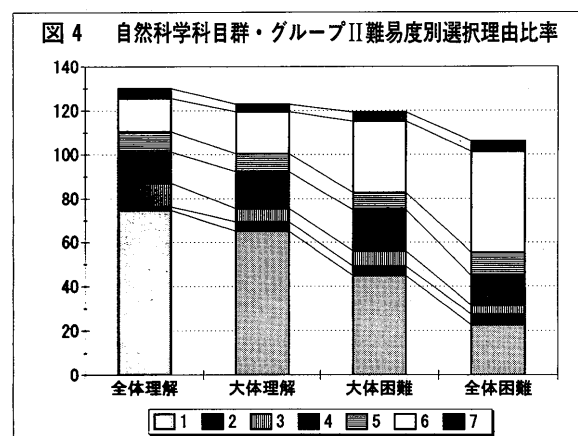
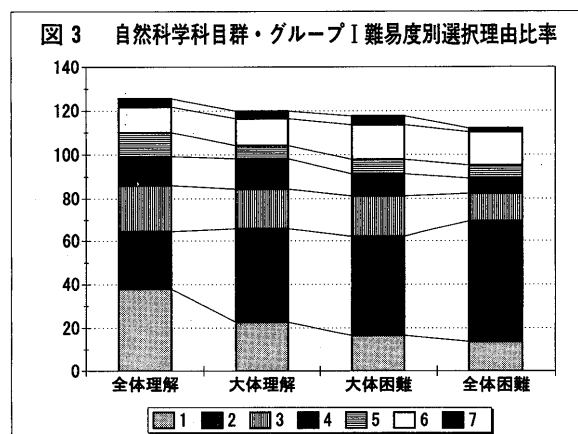
【難易度の分析結果】

すでに説明したように、自然科学科目群の中では数学、物理学、化学の学系グループ（グループⅠ）と生物学、地学の学系グループ（グループⅡ）の間にはいろいろな面で異なる傾向が見られる。そこで、両グルー

プの聴講学生全体を難易度別「全体としてはかなり分かり易かった（全体理解と略記）」、「全体としてはかなり分かり易かった（大体理解）」、「全体としてはかなり分かり難かった（大体困難）」、「全体として分かり難かった（全体困難）」の4つに分け、それらの中での百分率を取って、それらが選択理由、困難理由、受講結果、出席度合とどのような相関をもつのかを分析してみよう。

(1) 選択理由の比率

図3、図4はそれぞれ自然科学科目群のグループⅠ、グループⅡについて選択理由の比率をグラフにしたものである。ここで、番号は、1：「内容に興味を持った」、2：「指定されていた」、3：「専門で必要」、4：「一般教養として必要」、5：「単位の取り易さ」、6：「時間割の関係で選択せざるを得ず」、7：「その他」を表している。グラフは下から番号順の積層棒グラフである。（以下のグラフも同様。）

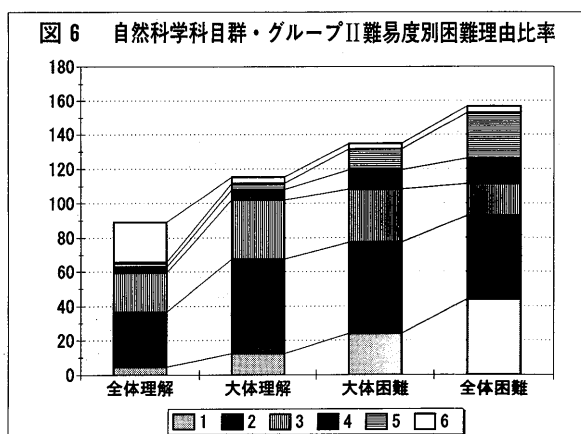
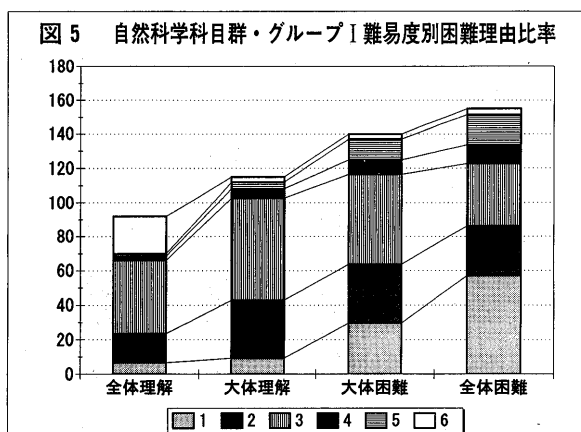


グループⅠ、Ⅱで明かに異なるパターンが見られる。グループⅠでは、指定や専門との関係で聴講する学生が多いにもかかわらず、困難に陥っている学生は多く、指定されて聴講する学生にその傾向が強い。グループⅡでは、内容に興味をもったので聴講した学生は理解できた方が多いが、時間割の都合で選択した学生に困難を訴える方が多くなっている。

いずれのグループでも「分かりやすい」と回答した学生ほど多くの選択理由を上げている。

(2) 困難理由の比率

図5、図6はそれぞれ自然科学科目群のグループⅠ、グループⅡについて困難理由の比率をグラフにしたものである。ここで、番号は、1：「程度が高すぎる」、2：「基礎知識が不足」、3：「勉強・努力不足」、4：「単位のために選択」、5：「内容に興味を持てない」、6：「その他」を表している。

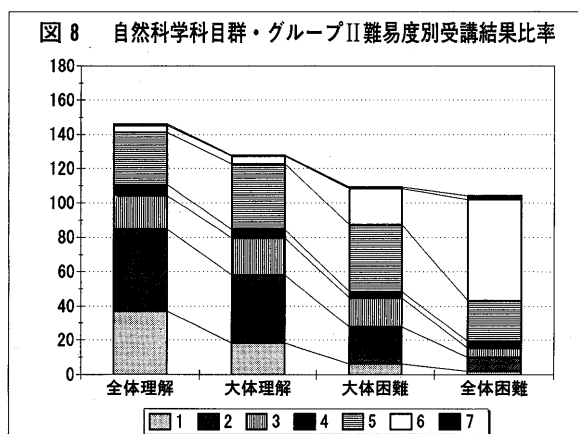
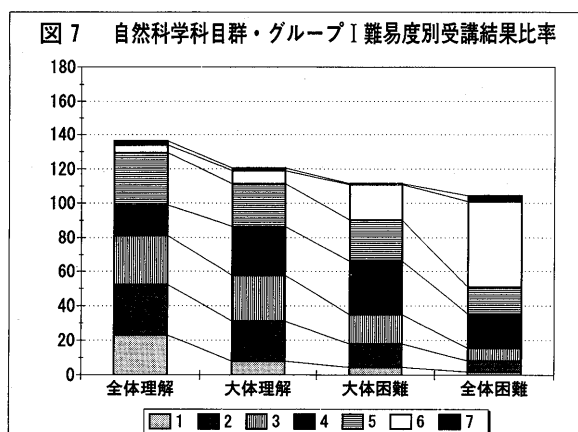


パターンはかなり異なる。グループⅠでは、困難を感じている学生は、基礎知識の不足よりも、自分の勉強努力の不足や程度が高いことを理由にしているが、グループⅡでは、基礎知識の不足が大きい理由となっており、自分の勉強努力の不足はむしろ少ない。

また選択理由の場合と反対に、いずれのグループでも「分かり難かった」と回答した学生ほど多くの選択理由を上げている。

(3) 受講結果の比率

図7、図8はそれぞれ自然科学科目群のグループⅠ、グループⅡについて受講結果の比率をグラフにしたものである。ここで、番号は、1：「内容に関心が深まった」、2：「学問に関心が深まった」、3：「体系的知識が得られた」、4：「専門の準備として役立った」、5：「教養としての知識・考え方が得られた」、6：「特に何も得られなかった」、7：「その他」を表している。

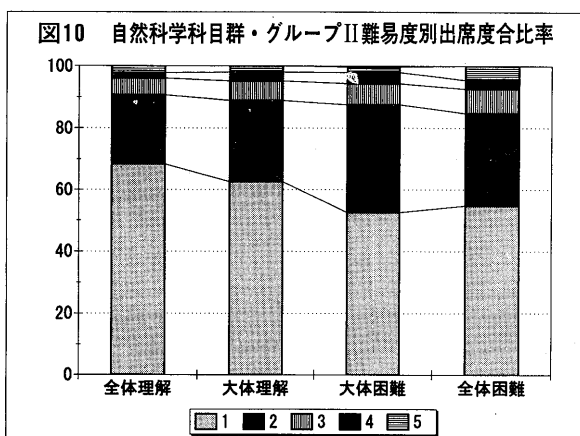
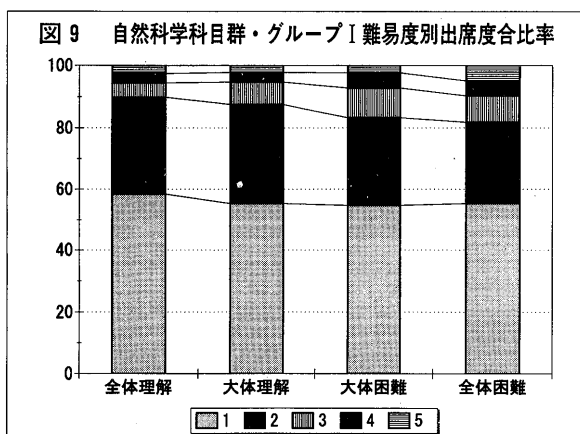


ここでも、パターンはかなり異なる。グループⅠでは、困難ではあったが専門的知識が得られた、と答えた学生が多いが、グループⅡでは、教養として知識が得られた、と答えた学生の方が多い。グループⅠ、Ⅱ共に、困難を感じた上に、特に何も得るところはなかった、と答えた学生が相当数いることに留意すべきであろう。

また選択理由の場合と同様にいずれのグループでも「分かりやすい」と回答した学生ほど多くのものを得たと回答している。

(4) 出席度合の比率

図9、図10はそれぞれ自然科学科目群のグループⅠ、グループⅡについて出席の度合いの比率をグラフにしたものである。ここで、番号は、1：「ほぼ全回出席」、2：「2/3位は出席」、3：「1/2位は出席」、4：「1/3位は出席」、5：「ほとんど出席しなかった」を表している。



少しパターンに違いが見られる。グループⅠでは、多く出席した学生の方が良く理解しており、出席率の悪い学生の方が困難を感じている、と言える。しかし、その差は大きくはない。グループⅡでは、理解度は出席の度合にあまり関係がないように見える。

理解度と出席が余り相関を持たないのは意外に感じるかもしれない。しかし、実際の回答率が59%であることを考慮して、困難を感じた学生で回答をしているのは忍耐強く受講している学生ということを理解すれば不思議でもない。

いずれにせよ、グループⅠ、Ⅱ共に出席率は決して良いとは言えない。

【自然科学系教養教育の問題点】

アンケートの結果から、自然系列の授業科目については、かなり深刻な状況が浮かび上がってくる。学生は、ガイダンスで指導されたか、あるいは専門の準備として自ら進んで聴講してみるが、授業は難しく、理解できないところが出てきても、先生には殆ど質問もせず、予習も復習もしない。先生は熱心で、学生にもそれは良く伝わっている。(今回、アンケートの実施を希望した先生は全員熱心な先生であろう。)しかし、内容の程度は高く、努力不足なので、わからないところは増えてゆくばかりで、ついには、興味が持たなくなり、欠席がちになる。アンケートに答えた学生の約半数がこのような困った状況に陥っている。さらに、アンケート回答率が高くなかったことを考え合わせれば、このような困った状況に陥っている実際の学生はきわめて多いと想像される。

このような状況の原因のすべてを、学生側の無気力で消極的な勉学態度のせいにすることができるかどうか、が問題である。もちろん限界はあろうが、ある程度までは教える側から色々な方法で援助の手を差しのべることはできると思う。また、アンケート調査はその方法を探るためにあるのではないであろうか。

アンケートの集計結果は現在の自然科学系教養教育がいろいろな問題を抱えていることをかなり具体的に明らかにしたように見える。しかし、アンケートの結果が意味するものを的確に読みとることに所詮限界があるので、それらの問題を明快な形に整理すること

は難しい。以下では、このアンケートを通して筆者らが感じたいいくつかの問題点を挙げて、この報告を終わりたいと思う。

(1) 多数の学生が、講義内容の程度が高すぎると感じたり、理解が困難であると訴えていることは、教える側が学生のバックグラウンドをよく把握し、授業の達成度を常に確かめつつ授業を進める必要があることを示唆している。単に講義内容のレベルを下げればよいことを示唆するものではない、と思う。アンケートで明らかのように、数学科や物理学科の学生のように、高等学校で数学や物理学を履修し、大学でそれらを専門にしようとしている学生の中にも、そのような学生が数多くいるのであるから、高等学校で満足に履修してこなかった学科を大学で初めて学ぼうとする学生の困難さは並大抵のことではない、というのが現状である。

(2) 他方において、その数は少ないかも知れないが、高い能力をもった学生や勉強好きの学生がいることも事実である。このような学生の能力をさらに伸ばし、彼らの興味をさらに発展させるように努力することも、当然のことながら、教える側の大切な義務である。

(3) 平成7年度のカリキュラムでは、文科系学生向けの自然科学系科目の改善として、それらを総合科目として開講することになった。各学系からそのような科目が、内容を簡潔に表した名称が付けられて多数開設されることになったが、旧教養部の頃から問題視され、また、今回のアンケートでも再確認されたように、文科系学生は困難理由として「基礎知識不足」を上げている。従って、ここでは一層聴講者のバックグラウンドをよく把握した上で授業を行うことが必要となろう。

(4) 学習の積み上げが重要である自然系科目においては、出席率が低いことは、困難に陥ることと無関係ではありえないし、そのような傾向は集計結果にも表れている。学生側の自覚を促したり、毎回出席を

とるなどの配慮が必要かと思われる。

(5) 「時間割の都合で選択せざるを得なかった」という不合理な現状は、来年度は総合科目の充実などによってある程度は緩和されるものと期待されるが、時間割を調節することによって、できる限り改善する必要がある。アンケートの結果は時間割の都合で選択した学生が学習困難に陥る可能性が大きいことを示している。

(6) 現在の学生があまり勉強をしなくなった、とよく言われるが、「予習も復習もしない」学生がこれ程に多いという実態には驚くばかりである。受講困難の大きい理由に「自分の勉強努力不足」が上げられているから、勉強は必要と思っているようには見えるが、多くの学生が予習も復習もしない理由は何なのであろうか。学生が予習も復習もせずに単位がとれる講義の方には問題がないのであろうか。

(7) 途中で聴講を放棄した学生の真意をぜひ聞くべきである。そのための手段としては、今回のようなアンケート形式は適当ではないので、学生の意見を常に受付ける制度を新たに設けることも検討すべきかも知れない。

5. まとめと今後の取り組み

今回のアンケートは試行的に実施したので、科目数も平均して半分程度で全体をカバーした訳でないが、一定の傾向は読み取れた。自然科学科目群ではアンケート実施科目数も多く、全体の傾向を示しているものと判断される。

個々の授業についてのアンケート回答の集計結果は、担当教員の何人かに聞いたところでは、予想していたところと大きな違いはないが、見るべきところは良くみており、大多数の学生は真剣に取り組んでいる。学生の反応を知る上で有効であり、参考になるとの声が多かった。特に、自由意見は傾聴すべきものも多く、授業をする側と受ける側の立場の違いが出ており、来年度学生にどのようにして返すか、熟慮しているとの

意見もあった。自由意見はまだ整理が終わっていないので、その内容を書くことができないが、いずれまとめて報告したいと考えている。

自然科学系科目のところでも述べたが、学習時間の少ないことは驚くべきことで、学生の履修姿勢に残念ながら主体的に参加する取り組みを感じない。学生が主体とならない限り、大学教育の目的は達せられないので、受け身一方でなく、主体的に取り組むようにさせることが必要であろう。また、受講する学生の幅が極めて広い場合にどのように対応するか、クラス編成のやり方も含めて、今後の課題である。

アンケート結果を担当者個人が受けとめて、授業改善のために生かすことは当然として、教員集団あるいは大学として組織的にどう活用すべきかについてはいろいろ議論のあるところであろう。一つの方法として同一教科内で教員同士が教育改善を議論する際の資料として活用することが考えられるが、その他有効な使

い方等については教員にアンケートを取っており、今後検討していきたい。

今回は普通の講義形式の授業に限定して実施したが、外国語、保健体育、実験・実習等の科目についても、授業内容に適合した質問項目を検討して準備を進める必要があろう。

今回、試行的とはいえ、かなりの授業科目について学生によるアンケートを実施して、教員が授業改善の資料とするだけでなく、学生自身にとっても自分の学習態度を反省し、学習意欲を高める上でも意味があると判断された。今後、授業改善のために全科目について本格的に実施することを考えており、全学的に検討する必要がある。そのため、今回の学生によるアンケート結果の報告及び教員にお願いしたアンケートの意見を集約して討議資料とするべく準備をしているところである。

授業改善のためのアンケート

(学生による授業評価に向けて)

新潟大学大学教育開発研究センター研究開発部門

新潟大学では大学教育改善のための検討を行っています。このアンケートはそのための一環として行うもので、授業に対する学生諸君の評価・意見等に基づいて、授業の改善・教員の教育能力の向上に役立てることを目的としたものです。自分の氏名を記入する必要はありません。このアンケートの結果が上記の目的以外に使用されることはありません(成績評価に使われることはありません)。

選択肢の内から適当なものを選択し、マークシートのその番号を黒鉛筆で○印をつけてください。選択肢が「++ + 0 - --」になっている場合があります。「++」は「強くそう思う」、「+」は「そう思う」、「0」は「どちらでもない」、「-」は「反対だと思う」、「--」は「強く反対だと思う」を表しています。なお、特に意見・感想のない場合にはその質問に答える必要はありませんので、マークシートの該当欄は空白にしておいてください。

まず準備としての質問です。

- (1) どの学部・に所属していますか。(在籍番号の最初のアルファベットです)

H, P, L, E, S, M, D, T, A

- (2) 入学年はいつですか。(在籍番号の最初の2, 3番目の数字です)

94, 93, 92, 91, 90, 89, 88, 87

一般的な質問です。

- (3) この授業を選択した理由は何ですか。(複数回答可)

①講義概要の冊子を見て内容に興味を持った ②指定されていた ③専門との関連で必要だと思った
④一般教養として必要だと思った ⑤簡単に単位がとれそうだった ⑥時間割の関係で選択せざるをえなかった ⑦その他(マークシートの欄に具体的に記入してください。)

- (4) この授業の難易度は全体的に見てどうでしたか。

①全体としてわかりやすかった ②わかりにくい点もあったが、全体としてはかなりわかりやすかった
③わかりやすい点もあったが、全体としてはかなりわかりにくかった ④全体としてわかりにくかった

- (5) 受講してわかりにくい点が出てきた理由は何であると考えますか。(複数回答可)

①講義内容の程度が高すぎる ②受講に要求される基礎知識が不足していた(高校での未履修等による)
③自分の勉強、努力が足りなかった ④単位取得のためやむなく選択した ⑤講義内容に興味が持てず、勉強する気になれなかった ⑥その他(「容易であった」場合も含めて、マークシートの欄に具体的に記入してください。)

- (6) 受講の結果どのようなものが得られましたか。(複数回答可)

①興味を持っていた内容に関心が深まった ②この分野の学問に対して関心が深まった ③体系的知識が得られた ④専門の準備として役だった ⑤教養としての知識・考え方が得られた ⑥特に何も得られなかった ⑦その他(マークシートの欄に具体的に記入してください。)

あなたの受講の様子について質問します。

- (7) どのくらいこの授業に出席しましたか。

①ほぼ全回出席した ②2/3位は出席した ③1/2位は出席した ④1/3位は出席した ⑤ほとんど出席しなかった

- (8) 授業を欠席あるいは授業に遅刻したとき、その後どうしましたか。

①授業内容を友人に聞くようにした ②ノートを友人に借りて写すようにした ③担当教員に聞くようにした ④時には友人あるいは担当教員に聞くとか、ノートを友人に借りて写したこともある ⑤特に何もしなかった

- (9) 授業で理解できなかった箇所が出てきたとき、どうしましたか。
 ①友人と話し合うようにした ②担当教員に質問するようにした ③関係する図書で調べるようにした
 ④時には友人と話し合うとか、担当教員に質問するとか、関係する図書で調べたこともある ⑤特に何も
 しなかった
- (10) 講義科目では、ある程度の自習時間をとることを想定して単位数が決められています。自習
 としてどのようなことをしましたか。
 ①授業で紹介された図書や資料を読んでみたりした ②関連する図書や資料を自分で見つけ読んでみたり
 した ③ノートを書き直して整理した ④予習あるいは復習をした ⑤特に何もしなかった

この授業の内容について質問します。

- (11) 授業の主題・テーマが明確で、その線にそって授業が進められたか。
 ++ + 0 - --
- (12) 講義の内容・説明が体系的で整理されていたか。
 ++ + 0 - --
- (13) 授業の中でいろいろな概念や理論がよくわかるよう、平易に説明されたか。
 ++ + 0 - --
- (14) 授業の内容は興味あるものだったか。
 ++ + 0 - --
- (15) 講義概要（シラバス）の予定通り進められたか。
 ++ + 0 - --
- (16) 各回の授業、あるいは全体の授業の内容は、量的に適切であったか。
 ++ + 0 - --

授業のやり方について質問します。

- (17) 話し方（早さ、声の大きさ、明瞭度等）は適切であったか。
 ++ + 0 - --
- (18) 黒板の使い方、板書の文字は適切であったか。
 ++ + 0 - --
- (19) 視聴覚教材・プリント・教科書等は適切に使用されていたか。
 ++ + 0 - --
- (20) 教員が一方的に講義を進めるのではなく、学生の反応を考えながら授業を進めていたか。
 ++ + 0 - --

授業一般について質問します。

- (21) 教員が授業に熱意を持っていると感じましたか。
 ++ + 0 - --
- (22) 教員が学生の発言を促し、学生の意見に耳を傾けようとしていたか。
 ++ + 0 - --
- (23) この授業により、自分の考え方がつちかわれたと考えますか。
 ++ + 0 - --
- (24) 講義室の状態・聴講学生数等は適切でしたか。
 ++ + 0 - --

その他次の事項について、マークシートの裏面に自由に書いてください。

- (25) この授業でよかったと思う点をあげてください。
- (26) この授業でよくなかったと思う点をあげてください。
- (27) この授業をよりよいものにするにはどうすればよいと思いますか。
- (28) その他意見があれば、自由に書いてください。

平成6年度授業改善のためのアンケート調査科目群別集計

新潟大学大学教育開発研究センター

この資料は、平成6年度授業改善のためのアンケート結果を総合科目、人文科学、社会科学、自然科学の各科目群及びそれらを合わせた合計について集計したものです。

延べの回答人数は以下のとおりです。

回答人数

科目群	回答人数
総合科目	827
人文科学	1724
社会科学	1573
自然科学	3788
合 計	7912

以下、各設問項目についての回答数を記します。設問等は一部簡略化して記しています。詳細は「授業改善のためのアンケート」を参照して下さい。

下段の()の中の数値は各科目群の回答人数に対する百分率(回答人数で割った数の100倍)を表しています。百分率は複数回答のある設問では、それらの総和が100を越えることがあります。また、未記入の数が多い場合は100未満になります。

(1) 学 部

科目群	人	教	法	経	理	医	歯	工	農
総合科目	38 (4.6)	86 (10.4)	147 (17.8)	93 (11.2)	88 (10.6)	68 (8.2)	50 (6.0)	107 (12.9)	149 (18.0)
人文科学	285 (16.5)	463 (26.9)	381 (22.1)	161 (9.3)	138 (8.0)	39 (2.3)	16 (0.9)	127 (7.4)	109 (6.3)
社会科学	166 (10.6)	379 (24.1)	245 (15.6)	258 (16.4)	149 (9.5)	40 (2.5)	40 (2.5)	134 (8.5)	161 (10.2)
自然科学	278 (7.3)	576 (15.2)	269 (7.1)	395 (10.4)	544 (14.4)	212 (5.6)	246 (6.5)	843 (22.3)	423 (11.2)
合 計	767 (9.7)	1504 (19.0)	1042 (13.2)	907 (11.5)	919 (11.6)	359 (4.5)	352 (4.4)	1211 (15.3)	842 (10.6)

(2) 入学年度

科目群	94	93	92	91	90	89	88	87
総合科目	721 (87.2)	86 (10.4)	11 (1.3)	7 (0.8)	1 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
人文科学	1445 (83.8)	238 (13.8)	24 (1.4)	12 (0.7)	2 (0.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.1)
社会科学	1339 (85.1)	193 (12.3)	22 (1.4)	12 (0.8)	3 (0.2)	1 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.1)
自然科学	3209 (84.7)	482 (12.7)	52 (1.4)	35 (0.9)	6 (0.2)	2 (0.1)	1 (0.0)	0 (0.0)
合 計	6714 (84.9)	999 (12.6)	109 (1.4)	66 (0.8)	12 (0.2)	3 (0.0)	1 (0.0)	2 (0.0)

一般的質問

(3) 選択理由

この授業を選択した理由は何ですか。(複数回答可)

- ①講義概要の冊子を見て興味を持った
- ②指定されていた
- ③専門との関連で必要だと思った
- ④一般教養として必要だと思った
- ⑤簡単に単位がとれそうだった
- ⑥時間割の関係で選択せざるをえなかった
- ⑦その他

科目群	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
総合科目	430 (52.0)	206 (24.9)	69 (8.3)	147 (17.8)	41 (5.0)	106 (12.8)	16 (1.9)
人文科学	1200 (69.6)	6 (0.3)	111 (6.4)	241 (14.0)	248 (14.4)	234 (13.6)	92 (5.3)
社会科学	974 (61.9)	18 (1.1)	39 (2.5)	308 (19.6)	135 (8.6)	329 (20.9)	76 (4.8)
自然科学	1540 (40.7)	880 (23.2)	480 (12.7)	524 (13.8)	292 (7.7)	709 (18.7)	138 (3.6)
合 計	4144 (52.4)	1110 (14.0)	699 (8.8)	1220 (15.4)	716 (9.0)	1378 (17.4)	322 (4.1)

(4) 難易度

この授業の難易度は全体的に見てどうでしたか。
(複数回答可)

- ①全体としてわかりやすかった
- ②全体としてはかなりわかりやすかった
- ③全体としてはかなりわかりにくかった
- ④全体としてわかりにくかった

科目群	①	②	③	④
総合科目	142 (17.2)	382 (46.2)	226 (27.3)	75 (9.1)
人文科学	771 (44.7)	541 (31.4)	264 (15.3)	143 (8.3)
社会科学	449 (28.5)	682 (43.4)	336 (21.4)	101 (6.4)
自然科学	679 (17.9)	1544 (40.8)	1122 (29.6)	441 (11.6)
合計	2041 (25.8)	3149 (39.8)	1948 (24.6)	760 (9.6)

(5) 困難理由

受講して分かりにくい点が出てきた理由は何である
と考えますか。(複数回答可)

- ①講義内容の程度が高すぎる
- ②受講に要求される基礎知識が不足していた
- ③自分の勉強、努力が足りなかった
- ④単位取得のためやむなく選択した
- ⑤興味が持てず、勉強する気になれなかった
- ⑥その他

科目群	①	②	③	④	⑤	⑥
総合科目	120 (14.5)	318 (38.5)	235 (28.4)	69 (8.3)	110 (13.3)	71 (8.6)
人文科学	218 (12.6)	595 (34.5)	486 (28.2)	74 (4.3)	122 (7.1)	314 (18.2)
社会科学	135 (8.6)	539 (34.3)	511 (32.5)	134 (8.5)	183 (11.6)	207 (13.2)
自然科学	746 (19.7)	1523 (40.2)	1527 (40.3)	268 (7.1)	303 (8.0)	260 (6.9)
合計	1219 (15.4)	2975 (37.6)	2759 (34.9)	545 (6.9)	718 (9.1)	852 (10.8)

(6) 受講結果

受講の結果どのようなものが得られましたか。(複数回答可)

- ①興味を持っていた内容に関心が深まった
- ②この分野の学問に対して関心が深まった
- ③体系的知識が得られた
- ④専門の準備として役だった
- ⑤教養としての知識・考え方が得られた
- ⑥特に何も得られなかった
- ⑦その他

科目群	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
総合科目	203 (24.5)	298 (36.0)	105 (12.7)	104 (12.6)	283 (34.2)	90 (10.9)	9 (1.1)
人文科学	574 (33.3)	672 (39.0)	267 (15.5)	91 (5.3)	661 (38.3)	155 (9.0)	22 (1.3)
社会科学	264 (16.8)	438 (27.8)	230 (14.6)	31 (2.0)	741 (47.1)	202 (12.8)	18 (1.1)
自然科学	499 (13.2)	1008 (26.6)	741 (19.6)	590 (15.6)	1129 (29.8)	586 (15.5)	45 (1.2)
合計	1540 (19.5)	2416 (30.5)	1343 (17.0)	816 (10.3)	2814 (35.6)	1033 (13.1)	94 (1.2)

受講の様子

(7) どのくらいこの授業に出席しましたか。

- ①ほぼ全回出席した
- ②2/3位は出席した
- ③1/2位は出席した
- ④1/3位は出席した
- ⑤ほとんど出席しなかった

科目群	①	②	③	④	⑤
総合科目	431 (52.1)	260 (31.4)	71 (8.6)	35 (4.2)	30 (3.6)
人文科学	1031 (59.8)	438 (25.4)	131 (7.6)	76 (4.4)	41 (2.4)
社会科学	869 (55.2)	400 (25.4)	151 (9.6)	90 (5.7)	61 (3.9)
自然科学	2208 (58.3)	1089 (28.7)	270 (7.1)	127 (3.4)	93 (2.5)
合計	4539 (57.4)	2187 (27.6)	623 (7.9)	328 (4.1)	225 (2.8)

(8) 授業を欠席あるいは遅刻したとき、その後どうしましたか。

- ①授業内容を友人に聞くようにした
 ②ノートを友人に借りて写すようにした
 ③担当教員に聞くようにした
 ④時には①、②、③をしたこともある。
 ⑤特に何もしなかった

科目群	①	②	③	④	⑤
総合科目	117 (14.1)	367 (44.4)	9 (1.1)	30 (3.6)	284 (34.3)
人文科学	230 (13.3)	884 (51.3)	17 (1.0)	74 (4.3)	426 (24.7)
社会科学	195 (12.4)	749 (47.6)	10 (0.6)	70 (4.5)	464 (29.5)
自然科学	440 (11.6)	1921 (50.7)	35 (0.9)	174 (4.6)	1079 (28.5)
合 計	982 (12.4)	3921 (49.6)	71 (0.9)	348 (4.4)	2253 (28.5)

(9) 授業で理解できない箇所がでてきたとき、どうしましたか。

- ①友人と話し合うようにした
 ②担当教員に質問するようにした
 ③関係する図書で調べるようにした
 ④時には①、②、③をしたこともある。
 ⑤特に何もしなかった

科目群	①	②	③	④	⑤
総合科目	192 (23.2)	17 (2.1)	110 (13.3)	47 (5.7)	458 (55.4)
人文科学	447 (25.9)	56 (3.2)	217 (12.6)	83 (4.8)	891 (51.7)
社会科学	360 (22.9)	45 (2.9)	176 (11.2)	67 (4.3)	913 (58.0)
自然科学	1045 (27.6)	132 (3.5)	546 (14.4)	281 (7.4)	1780 (47.0)
合 計	2044 (25.8)	250 (3.2)	1049 (13.3)	478 (6.0)	4042 (51.1)

(10) 自習としてどのようなことをしましたか。

- ①授業で紹介された図書等を読んでみた
 ②関連する図書等を自分で見つけ読んでみた
 ③ノートを書き直して整理した
 ④予習あるいは復習をした
 ⑤特に何もしなかった

科目群	①	②	③	④	⑤
総合科目	63 (7.6)	131 (15.8)	84 (10.2)	41 (5.0)	508 (61.4)
人文科学	137 (7.9)	265 (15.4)	169 (9.8)	162 (9.4)	993 (57.6)
社会科学	104 (6.6)	189 (12.0)	174 (11.1)	80 (5.1)	1030 (65.5)
自然科学	173 (4.6)	401 (10.6)	455 (12.0)	451 (11.9)	2325 (61.4)
合 計	477 (6.0)	986 (12.5)	882 (11.1)	734 (9.3)	4856 (61.4)

以下の項目では、選択肢「++ + 0 - --」はそれぞれ

「++」は「強くそう思う」

「+」は「そう思う」

「0」は「どちらでもない」

「-」は「反対だと思う」

「--」は「強く反対だと思う」

を表しています。

授業の内容

(11) 主題・テーマが明確で、その線にそって授業が進められたか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	183 (22.1)	343 (41.5)	210 (25.4)	69 (8.3)	20 (2.4)
人文科学	824 (47.8)	649 (37.6)	199 (11.5)	36 (2.1)	6 (0.3)
社会科学	470 (29.9)	736 (46.8)	257 (16.3)	78 (5.0)	19 (1.2)
自然科学	1203 (31.8)	1733 (45.7)	673 (17.8)	121 (3.2)	42 (1.1)
合 計	2680 (33.9)	3461 (43.7)	1339 (16.9)	304 (3.8)	87 (1.1)

(12) 講義の内容・説明が体系的で整理されていたか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	102 (12.3)	313 (37.8)	279 (33.7)	105 (12.7)	26 (3.1)
人文科学	629 (36.5)	714 (41.4)	290 (16.8)	66 (3.8)	15 (0.9)
社会科学	278 (17.7)	721 (45.8)	384 (24.4)	144 (9.2)	32 (2.0)
自然科学	807 (21.3)	1789 (47.2)	843 (22.3)	273 (7.2)	55 (1.5)
合 計	1816 (23.0)	3537 (44.7)	1796 (22.7)	588 (7.4)	128 (1.6)

(13) 授業の中でいろいろな概念や理論がよく分かるよう、平易に説明されたか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	106 (12.8)	292 (35.3)	293 (35.4)	106 (12.8)	29 (3.5)
人文科学	590 (34.2)	609 (35.3)	373 (21.6)	112 (6.5)	34 (2.0)
社会科学	285 (18.1)	711 (45.2)	417 (26.5)	123 (7.8)	30 (1.9)
自然科学	629 (16.6)	1488 (39.3)	1078 (28.5)	447 (11.8)	137 (3.6)
合計	1610 (20.3)	3100 (39.2)	2161 (27.3)	788 (10.0)	230 (2.9)

(16) 各回の授業、あるいは全体の授業の内容は、量的に適切であったか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	96 (11.6)	330 (39.9)	289 (34.9)	91 (11.0)	21 (2.5)
人文科学	550 (31.9)	640 (37.1)	344 (20.0)	152 (8.8)	32 (1.9)
社会科学	354 (22.5)	761 (48.4)	360 (22.9)	75 (4.8)	9 (0.6)
自然科学	580 (15.3)	1548 (40.9)	1092 (28.8)	433 (11.4)	123 (3.2)
合計	1580 (20.0)	3279 (41.4)	2085 (26.4)	751 (9.5)	185 (2.3)

授業のやり方

(14) 授業の内容は興味あるものだったか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	196 (23.7)	347 (42.0)	195 (23.6)	69 (8.3)	19 (2.3)
人文科学	678 (39.3)	580 (33.6)	292 (16.9)	129 (7.5)	40 (2.3)
社会科学	355 (22.6)	674 (42.8)	348 (22.1)	136 (8.6)	52 (3.3)
自然科学	630 (16.6)	1478 (39.0)	1121 (29.6)	395 (10.4)	155 (4.1)
合計	1859 (23.5)	3079 (38.9)	1956 (24.7)	729 (9.2)	266 (3.4)

(17) 話し方（速さ、声の大きさ、明瞭度等）は適切であったか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	141 (17.0)	340 (41.1)	224 (27.1)	92 (11.1)	29 (3.5)
人文科学	723 (41.9)	654 (37.9)	240 (13.9)	90 (5.2)	10 (0.6)
社会科学	421 (26.8)	606 (38.5)	285 (18.1)	178 (11.3)	79 (5.0)
自然科学	1146 (30.3)	1512 (39.9)	625 (16.5)	361 (9.5)	140 (3.7)
合計	2431 (30.7)	3112 (39.3)	1374 (17.4)	721 (9.1)	258 (3.3)

(15) 講義概要（シラバス）の予定どおり進められたか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	98 (11.9)	274 (33.1)	329 (39.8)	72 (8.7)	50 (6.0)
人文科学	423 (24.5)	707 (41.0)	477 (27.7)	78 (4.5)	18 (1.0)
社会科学	233 (14.8)	701 (44.6)	553 (35.2)	54 (3.4)	8 (0.5)
自然科学	556 (14.7)	1584 (41.8)	1377 (36.4)	200 (5.3)	33 (0.9)
合計	1310 (16.6)	3266 (41.3)	2736 (34.6)	404 (5.1)	109 (1.4)

(18) 黒板の使い方、板書の文字は適切であったか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	48 (5.8)	161 (19.5)	320 (38.7)	215 (26.0)	81 (9.8)
人文科学	454 (26.3)	572 (33.2)	411 (23.8)	229 (13.3)	48 (2.8)
社会科学	146 (9.3)	361 (22.9)	522 (33.2)	387 (24.6)	141 (9.0)
自然科学	723 (19.1)	1185 (31.3)	926 (24.4)	704 (18.6)	242 (6.4)
合計	1371 (17.3)	2279 (28.8)	2179 (27.5)	1535 (19.4)	512 (6.5)

(19) 視聴覚教材・プリント・教科書等は適切であったか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	160 (19.3)	313 (37.8)	251 (30.4)	80 (9.7)	21 (2.5)
人文科学	511 (29.6)	562 (32.6)	484 (28.1)	105 (6.1)	41 (2.4)
社会科学	218 (13.9)	377 (24.0)	607 (38.6)	244 (15.5)	97 (6.2)
自然科学	848 (22.4)	1306 (34.5)	1192 (31.5)	293 (7.7)	121 (3.2)
合 計	1737 (22.0)	2558 (32.3)	2534 (32.0)	722 (9.1)	280 (3.5)

(22) 教員が学生の発言を促し、学生の声に耳を傾けようとしていたか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	51 (6.2)	195 (23.6)	382 (46.2)	157 (19.0)	38 (4.6)
人文科学	178 (10.3)	375 (21.8)	721 (41.8)	274 (15.9)	103 (6.0)
社会科学	62 (3.9)	277 (17.6)	732 (46.5)	334 (21.2)	153 (9.7)
自然科学	304 (8.0)	837 (22.1)	1786 (47.1)	619 (16.3)	221 (5.8)
合 計	595 (7.5)	1684 (21.3)	3621 (45.8)	1384 (17.5)	515 (6.5)

(20) 一方的に講義を進めるのではなく、学生の反応を考えながら進めていたか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	54 (6.5)	178 (21.5)	368 (44.5)	169 (20.4)	57 (6.9)
人文科学	271 (15.7)	456 (26.5)	659 (38.2)	242 (14.0)	91 (5.3)
社会科学	75 (4.8)	346 (22.0)	634 (40.3)	369 (23.5)	137 (8.7)
自然科学	334 (8.8)	1046 (27.6)	1546 (40.8)	603 (15.9)	243 (6.4)
合 計	734 (9.3)	2026 (25.6)	3207 (40.5)	1383 (17.5)	528 (6.7)

(23) この授業により、自分の考えがたちかわれたと考えますか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	88 (10.6)	372 (45.0)	275 (33.3)	61 (7.4)	27 (3.3)
人文科学	326 (18.9)	682 (39.6)	529 (30.7)	139 (8.1)	41 (2.4)
社会科学	155 (9.9)	592 (37.6)	605 (38.5)	152 (9.7)	62 (3.9)
自然科学	288 (7.6)	1209 (31.9)	1628 (43.0)	458 (12.1)	194 (5.1)
合 計	857 (10.8)	2855 (36.1)	3037 (38.4)	810 (10.2)	324 (4.1)

授業一般

(21) 教員が授業に熱意を持っていると感じましたか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	202 (24.4)	368 (44.5)	217 (26.2)	27 (3.3)	12 (1.5)
人文科学	686 (39.8)	687 (39.8)	303 (17.6)	34 (2.6)	8 (0.5)
社会科学	468 (29.8)	694 (44.1)	339 (21.6)	55 (3.5)	13 (0.8)
自然科学	1253 (33.1)	1671 (44.1)	714 (18.8)	102 (2.7)	41 (1.1)
合 計	2609 (33.0)	3420 (43.2)	1573 (19.9)	218 (2.8)	74 (0.9)

(24) 講義室の状態・聴講学生数等は適切でしたか。

科目群	++	+	0	-	--
総合科目	92 (11.1)	294 (35.6)	278 (33.6)	125 (15.1)	37 (4.5)
人文科学	320 (18.6)	624 (36.2)	391 (22.7)	247 (14.3)	135 (7.8)
社会科学	185 (11.8)	539 (34.3)	446 (28.4)	271 (17.2)	128 (8.1)
自然科学	567 (15.0)	1527 (40.3)	1165 (30.8)	407 (10.7)	115 (3.0)
合 計	1164 (14.7)	2984 (37.7)	2280 (28.8)	1050 (13.3)	415 (5.2)